

恋愛引き寄せの 法則究極メソッド

LOVEインフルエンス
～大好きな彼を恋に落とす情動転写の技法



大好きな彼の無意識に
「好き」という感情を書き込むヤバイ技術!!

恋愛引き寄せの法則究極メソッド

LOVE インフルエンス

～大好きなカレを恋に落とす情動転写の技法～

LOAリアリスト EIJI

ロンダバーン女史へ…

ザ・シークレットであなたが伝えた「引き寄せの秘密」は多くの
人々にインパクトを与えました。

ただ一つだけあなたが伝えなかった「引き寄せの究極の秘密」を
今ここに公開します。

あなたの偉大なる業績と人類への分かち合いの精神に愛と敬
意を込めて

LOAアーティスト EIJI

はじめに～大好きなカレをメロメロにさせる究極の恋愛引き寄せ教えます！！

もしもあなたに「引き寄せの魔法」が使えたら、何を叶えたいですか？

お金？大きな家？夢を叶えて世界旅行する！？

……ですがやはり、大半の女性にとっては「素敵なおイケメン王子様」がご希望なのではないでしょうか？

「ランプの精よ、私の想いを寄せる愛しいあの男性の心を私に釘付けにし、メロメロに好きにさせてしまうよう働きたまえ！！」

そんなアニメや映画のような魔法が真実使えるようになれば、きっとあなたの恋も人生も一変してしまうはずですよ。

ですが、そのような都合の良い魔法があるのかといえば、普通なら現実には存在しません。

私も同じく愛する女性をどのように振り向かせようか、何年も費やしてその方法を探していました。

……そしてついに見つけたのです。

「大好きな相手の心を思うままに書き換えてしまう方法」をです。

厳密に言えば「恋愛での好きという強い感情を相手に抱かせる」といった方法になります。

この方法を使えば、あなたの大好きなカレの無意識に直接「大好き」という感情を書き込むことができます。

つまりは「あなたを好きでたまらなくさせる」という夢のようなことができます。

「引き寄せの法則」のコンセプトは「自分の内側にある想い」を変えることで現実世界を変容させるという考え方です。

そして恋愛で言うならば「相手ありき」であり、そういった「自分以外の他者」が介入する願望実現は難しいと言われて来ました。

ですが私に言わせると「相手が人間だからこそ介入しやすい」のです。

つまりは「相手の無意識にある想い」に介入してしまえば、彼の心を変えてしまうこともそれほど難しくないとことです。

実際にこの魔法は私をはじめ、多くのこのメソッドをお伝えした人達に「恋と人生の変容」を起こして来ました。

そしてあなたが次に「恋と人生を変える」魔法を使う時が来たのです。

大好きな彼にメロメロに愛される覚悟はよろしいですか？

では一緒に「恋を叶える引き寄せの魔法」を学んでまいりましょう。

自宅書斎にて

胸いっぱいの愛と感謝を込めて
LOAリアリスト E I J I

はじめに～大好きな彼をメロメロにさせる究極の恋愛引き寄せ教えます！！

第一章 誕生秘話

- ・彼女いない歴二十年、恋の連敗街道まっしぐらだった
- ・「大好きな異性だけをゾッコンにさせたい」都合のいい願い
- ・神様がくれた「情動転写の技法」
- ・「もう落とせない相手はいない」と思った瞬間
- ・元モデルで十六歳年下の女性を落とした方法
- ・ディーン・フジオカをあなたも落とせる
- ・百人に一人の割合で存在する「オトコに困らない女性」
- ・奇跡再び～わずか数ヶ月で運命を変えた女性
- ・三十五日で会えない状態から復縁できた！？
- ・終わりかけた音信不通のカレから「大逆転の奇跡の連絡」

第二章 情動は伝染する

- ・なぜ「奇跡」は起こったのか？
- ・カウンセリングの現場で起こる「感情の転移」

- ・私の身体に起こった異変
- ・ミラーニューロンという神経システム
- ・脳のなかの情報は共有される
- ・虫の知らせと「百匹目のサル現象」
- ・自然と感情や脳内情報の共有は起こっている
- ・リモートビューイング～空間を超える意識
- ・答えはズバリ「波動」です
- ・神の声が聞こえた瞬間

第三章 そして禁断の技術は生まれた

- ・もし意図的に情動伝染をできたとしたら？
- ・強烈なイメージがありえない復縁を成就させた
- ・鍵は「臨場感」にアリ
- ・リアリティとは「強い情動」を感じることに
- ・「情動」＝「体感覚」という気づき
- ・もし「恋するドキドキ」を相手に転写できたなら？
- ・巷の引き寄せの法則より LOVE インフルエンスが強力な理由

- ・鍵は「相手の無意識に侵入すること」
- ・ラポール＝共感という心の扉を開く技術
- ・強い情動＋共感＝情動転写

第四章 情動転写の技法を伝授します

- ・ステップ1 強い情動を作る
- ・ステップ2 相手と共感的な状態を創る
- ・ステップ3 強烈に情動を発火する
- ・ステップ4 相手との一体感のなかで情動を最大化する
- ・変化にはタイムラグがある
- ・不安も伝染するので注意です！！
- ・ゴールは明確にしてください
- ・強度×頻度がポイントです
- ・相手ではなくまず「自分」に仕掛けること
- ・悪用厳禁ご注意を！！

あとがき～情動転写の技法は愛を伝える技術です

第一章 誕生秘話

◆彼女いない歴二十年、恋の連敗街道まっしぐらだった

実はここで恥ずかしい個人的なお話をしなければなりません。

なぜならそのほうが実体験を通して、本当の真実をお伝えできると感じているからです。

そもそも私自身、心から愛する女性と結ばれることをずっと夢見ながら叶わないうでいました。

「本当に好きな女性と付き合いたい」

そういった想いが強すぎたゆえにチャンスを逃すことがあったのも理由としてあります。

ですがそれでもやはり、事実として「彼女いない歴二十年」という残念な歴史は変わることなく今も私のなかに残っています。

本当に好きな人が現れては猛烈にアプローチしてフラれてしまうという残念な結果を繰り返していました。

そして私はついにキスをすることもなく、好きな女性と手をつなぐこともなく成人式を迎えてしまいました。

モチロン女性の前でパンツを脱ぐなどという大それたことも、したことはありませんでした。

おお神よ、あなたはなんと残酷なのか！！

私は来る日も来る日も、大好きな女性と抱きあう日を夢見ていました。

そんな残念な青春時代を送っていましたが、実は今よりも当時のほうが社交性がありました。

ですから友人として異性と仲良くなるのに、それほど苦労しませんでした。

ですがそこから先が難儀でした。

どう考えてもいい流れと展開でありながら、正式な恋人として受け入れてもらえないのです。

一番大きく覚えているのは二十歳のときの大失恋。

当時、高校の同級生だった女性に激しく恋に落ちました。

実際には高校生活の最後の恋ということで、彼女とのやり取りのほとんどは卒業後に行われました。

二年近く追いかけてつづけて、危うく宗教にまで入りかけてしまいました。

なぜなら彼女がある有名な宗教の信者だったからです。

「彼女に気にいられるような、素晴らしい人間になれば……」

そんな健気な想いを胸に追いかけていたのですが、ある時電話で言われました。

「どれだけ頑張っても友達以上に好きにならない人っているよね？」

すぐに私のことを言っているのだと思いました。

しかもとても軽い口調で笑いながら彼女は話していました。

今考えれば特に悪気もなく、諦めの悪い私を諭すために言ってくれたのだと思います。

ですが私には信じがたいショックでした。

「この先の人生を賭けて素晴らしい人間になっていけば、いつか必ず振り向いてもらえる」

今考えれば、なんと身勝手に自分本位な思い込みなのだと思います。

ですが当時の若かりし私にはそれが分かりませんでした。

「分かった、もう二度と電話はしない」

それだけかろうじて言うと、私は電話を切りました。

激しい胸の痛みと苦しみの感情が私を一気に襲いました。

心の痛みを耐えかねた私は、当時吸っていたタバコに火を点けました。

そして気がつく、左手の甲に火の点いたタバコを押し当てていました。

きっとそうすれば、心の痛みがまぎれると思ったのです。

「どれだけ純粹に誰かを好きになっても、それはけっして
届かない」

私は厳しい現実をまざまざと思い知らされたのです。

実は当時の私は、「本当に好きな想いを強く持ち続ければ、夢も愛も必ず叶う」と理由もなく信じていました。

愛する女性との未来を失っただけではなく、私は自分を支えていた「希望」を打ち砕かれてしまったのです。

ほどなく私は仕事も辞めて、家に引きこもるようになりました。

夢に向かう力も尽き果てて、全てを失ってしまったのです。

◆「大好きな異性だけをゾッコンにさせたい」都合のいい願
い

しばらくは立ち直れない日々が続きました。

私の場合、前述した通りに「恋愛」だけでなく「人生」そのものにおいて破れてしまった感がありました。

ですから失恋から立ち直ると同時に「社会復帰」をする必要がありました。

なんとか友人などの助けもあり、まともに社会生活を送れるようになりました。

そして「あの失恋」を境に大きな変化が訪れたのです。

二十年も彼女ができなかった私に念願の「初彼女」ができたのです。

初めて自分のパートナーと手をつないでデートをしたあの日のことを、私は今でも鮮明に覚えています。

実は彼女とは遠距離で、初めてのデートで付きあうことになってすぐに離れ離れになってしまいました。

元々彼女は上京して親戚の家に身を寄せて、就職活動をしていました。

私も立ち直りつつあり、仕事を見つける必要がありました。

そういったことで渋谷のある会社の面接先で出会ったのが彼女だったのです。

あいにくその会社は二人にとって、あまり魅力のある場所ではありませんでした。

彼女は東京での就職活動を諦め、地元である地方に帰ったのです。

そして私は就職活動をこちらで続けていました。

その間に中学時代の同級生から連絡があり、同窓会に呼ばれました。

そのなかで一人の女性と意気投合し、連絡を取りあうようになりました。

さらには新しく就職した広告代理店では、同行した女性社員の先輩に「あんたとってもカッコイイね」と言われました。

特に私自身、そのように言われたことはありません。

では突然イケメンに生まれ変わってしまったのでしょうか？

私は特に変わらず、同じままです。

ですがそれでも「あの失恋」によって、何かが変わっていたのです。

私はほどなく、就職した広告代理店のデザイナーの女性に誘われて付き合い合うことになりました。

遠距離の彼女には早々に素直に「好きな人ができた」と伝え、誠心誠意お詫びをしてお別れをしました。

「正直に伝えてくれて良かった」

今でも、そのような女性と初めてお付き合いができたことを幸せに思います。

「あの失恋」の後に、気がつけば「気に入った女性」と次々と仲良くなっている自分がいました。

危うく三又という事態は早々に避けることができ、一人の女性とお付き合いできたのは本当に良かったです。

ですがそれでも私は「狙った女性」……つまりは「好きになった異性」を落とす何かを強くつかんだ手応えがありました。

それは今まで感じたことのない「独特の感覚」でした。

「あの失恋」で最愛の女性を諦めたことで、私は「望む異性を手に入れる引き寄せの魔法」を手に入れたのです。

まだ当時はそこまでではなかったかも知れません。

ですが「大好きな異性だけをゾッコンにさせたい」という私の身勝手な都合の良い願望が形になりはじめていたのは間違いありません。

◆神様がくれた「情動転写の技法」

実は種明かしをすると、私の状況が変わった裏側には「内面の変化」がありました。

それまでは「好きな女性になんとかフリ向いてもらいたい」と、どこかで必死だったのです。

つまりは「やはり自分にはダメなのではないか？」という不安がいつも付きまわっていたことになります。

そういった「自信のなさ」は無意識のレベルで相手に伝わります。

私が特にアプローチを変えた訳でもなく、いきなりイケメン男子に容姿が生まれ変わったのでもないのにモテ出したのは「内面的な影響力」を身に付けたからです。

「あの大失恋」で私はある意味達観していたのです。

「どうせどう思おうとダメなものはダメなのだから、流れに任せるしかない」と、執着と不安を手放したのです。

ですから当然「フラれたらどうしよう」という気持ちはほぼ皆無に等しくなっていました。

そんな「揺れない心」が、強い影響力を相手に及ぼす基盤となっていたのです。

私達は常に何かに影響されて心を揺れ動かされています。

より「揺れない心」を持っているほうが、グラグラと揺れる相手よりも強い影響力を持つのです。

つまりは「強い精神的影響力を持つ」ということです。

私がそんな【無意識レベルの支配力】を持って好意を感じれば、当然相手もそれを受け入れるようになります。

「揺れない心」というと、なにか強靱な精神力をイメージするかも知れません。

ですがそうではないのです。

実際には「何も求めない、絶対的な安らぎと平和であり落ち着き」といった感覚です。

恋愛で言うならば「無償の愛」の感覚です。

すでに満たされていて絶対的な愛に包まれた状態。

何も求める必要もなく、何も失うこともない。

ただ今こうして一緒にいるだけで、全てが満たされて愛に包まれているという一体感の感覚。

そして、その感覚を強く生み出すには「相手に対する無条件の好意」

が鍵なのだということにも気づきました。

相手の全てを共感的に受け入れ、純粋な興味と好意を持って受け入れている状態。

そういった状態になったとき、心の境界線がなくなって相手の意識と自分の意識が一体となる感覚を私は経験的に知覚するようになりました。

そしてそんな「なんの怖れもない一体感の状態」が深い変性意識の状態であり、催眠誘導で導かれるトランス状態であると後々知りました。

心の境界線がなくなった時、相手の想いは私の想いになります。

私の望むことは、同じく相手の望むことになります。

つまりは私が相手を求めるならば、相手も同じく私を求めるようになるということです。

「好き」という感情を抱けば、相手も「好き」という感情を同じく感じる。

「両想い」という恋愛感情が生まれる仕組みがここにあります。

私はそういった自然発生的に起こる「両想い」を奇しくも意図的に生み出せるようになっていたのです。

つまりは自然と「相手を好きになるほどに、相手に好かれるようになる」という、「好きな異性だけをゾッコンにさせる」という都合の

良い夢を叶えることができてしまったのです。

それは後々調べていくほどに、高度な催眠技法や潜在意識への介入方法と怖いくらいに酷似していました。

さらにはそういった「感情が転写される」という原理は、臨床のカウンセリングの現場で日常的に起こっている現象であるということもわかりました。

いわゆる「物理学」のようなエビデンスや実験結果を求めるサイエンスとは異なりますが、それでも【概念的な公式として全て論理的に解明できる】法則性を私は自分なりにつかむことができたということです。

今思えば、それは「本気で相手を好きになればうまくいくなんて嘘なのだ！！」ということへの神様からの答えだったのだと思います。

私は自分なりにその技法に磨きをかけていきました。

そしてほぼ自在に使いこなすことができるようになっていました。

◆ 「もう落とせない相手はいない」と思った瞬間

実際に恋愛の現場で色々と試していくうちに、私はより「この技法」に確信を持つようになりました。

色々な条件を合わせて技法を発動させると、面白いくらいに異性がなびいてき

てしまうのです。

私自身、この技法に磨きをかけていた当時、アクセサリー業界にいました。

渋谷109や原宿のショップに入っているアクセサリー販売店舗や、雑貨屋さん
にアクセサリーを卸す商社で営業をしていたのです。

実は先に書いた通り、私はその前に「広告代理店」なる業種で営業の仕事を同じく
していました。

ですが同じ営業と言っても、随分と勝手が違いました。

私の勤めていた会社は広告代理店でも小さな零細企業です。

それでも客先は大手広告代理店であり、広告代理店名鑑の二十位な
どにランクされる会社と取引していたのです。

ちなみにトップ十位以内には博報堂などの名だたる代理店がありました。

ですので、一流広告代理店の企画営業のバリバリのなかに二十歳ソコソコで入
って行かなければなりませんでした。

それなりに「仕事ができる」という風に見せなければ、相手にしてもらえません。

私なりにかなり苦勞して、「一流の営業マンの立ち居振る舞い」とい
うのを身に付けなければなりませんでした。

おかげさまで、それなりになんとかこなっていたのですが……

アクセサリ業界では、そのスタイルが全く通用しなかったのです。

なぜなら、ファッション業界である店舗のアクセサリ売り場の担当は、ほぼ全員が「若い女性」であったからです。

どれほど理路整然と正しい理屈でプレゼンテーションしても、商品を仕入れてはいただけないのです。

「なんだか、小難しいことばかり言って、感じ悪い……」

そのように売り場担当の女性に嫌われてしまえば、終わりです。

そしてアクセサリの会社に入社して2ヶ月目には、大きな壁にぶつかっていました。

……そしてまさに、その壁を打ち破っていくのに「この技法」のエッセンスが役にたったのです。

「大好きな彼を恋に落とす技術」とは、すなわち「愛される好かれる技術」です。

そしてもっと言ってしまえば、そんな【好きという感情を相手の無意識に書き込んでしまう】という技術です。

当時はまだ、そこまで洗練されてはいませんでした。それでも「いけ好かない営業」から「愛される営業さん」になるには充分でした。

「お店のみんな、鈴木さんのこと大好きなんです」

今でもその温かい眼差しと嬉しそうな声が耳に残っています。

こういった「相手を恋に落とす恋愛心理テクニック」などと言うと、つい「駆け引きで相手をダメす」といったニュアンスのことが多いように感じます。

ですが「この技法」はそうではないのです。

真実、深い愛情を相手と構築するための無意識レベルのコミュニケーション技術なのです。

そして私は気になっている女性とお食事に行ったり、デートを重ねるようになりました。

普通にお食事だけの方もいれば、それ以上に発展する場合もありました。

そして本当に好きな女性を意のままに、望む関係を築けるようになっていました。

そのとき私は感じました。

「この世に落とせない女性はいない……」とです。

二十六歳の頃だったと思います。

空手家の故・大山倍達氏が自伝の中である時「もしかしたら、今、この地球上で自分が最強になってしまったのかも知れない」と感じたと言っています。

お恥ずかしい話、その時の私も全く同じ感覚でした。

◆元モデルで十六歳年下の女性を落とす方法

「ぜんぜん好きじゃなかったのに、なんで結婚したのかな？　なんか、変なこと仕掛けられたからじゃないかな」

たまに冗談半分に奥さんに言われます。

そう、実は奥さんにも「この技法」を使ったのは言うまでもありません。

ちなみに奥さんは元モデルで新垣結衣さんやモーニング娘だった辻希美さんとお仕事をしたこともあります。

当時、コンビニで働いていた彼女を見て「こんなアイドル級の可愛い女性が街のコンビニにいるなんて凄いな」と思ったのを覚えています。

今では三人の息子の母親であり、かなりふっくらとしてしまいましたが……

その時は本当に素敵な女性でした。(いやいや、今でもまた違った良さがあった魅力的ですが)

なぜ十六歳年下の元モデルで可愛かった彼女を落とせたの

か？

もう本当に「この技法」のおかげとしか言いようがありません。

もちろん、できるかぎりの努力もしました。

ですがやはり「この技法」あつてのこと。

実はそういったことで、「この技法」には年齢は関係ありません。

さらに性別も関係ないのです。

なぜなら【潜在意識に働きかける技術】だからです。

私達の無意識の深い部分……つまりは「潜在意識」はつながっています。

人類全ては【集合的無意識】という統一された大きな意識でつながっているというのはユングにより提唱されました。

さらにもっと言ってしまうと、我々人類の「集合的無意識」はさらに深い部分で全ての生物やこの世界とつながっています。

ですから変な話、動物でも原理的には影響を及ぼすことができるのです。

◆ディーン・フジオカをあなたも落とせる

つまりは相手が「芸能人」であっても、当然変わらないわけです。動物よりは近い意識ですから、もっとやりやすいです。

ですので「おディーン様」ことディーン・フジオカでも、三代目の岩田クンでも同じです。

潜在意識の仕組みと原理から言えば、そういった容姿や立場などは一切関係ないのです。

モチロンそれはあくまで「相手を恋に落とす」という意味です。

好きだからと言って、全ての恋が成就するわけではありません。

好きでも別れなければならないカップルは、世の中にゴマンといます。

ですがもし強烈に相手を恋に落として、心を驚掴みにできたとしたら？

ほぼカレとの関係をディープなものにできるのは間違いないはずです。

なぜなら人を動かすのは「理屈」ではなく「感情」だからです。

人は「感情」で意思決定をし、「理性」で理由付けをします。

ディーン・フジオカや三代目の岩田クンがあなたにメロメロになってしまえば、お付き合いしたり結婚したりする理由は後から付いて

くるということです。

もちろん、それは一般男性にも共通します。

今どれだけ状況が悪かったとしても……

もし本当に深く彼の感情を動かすことができたとしたら？

あなたの恋愛は現在の状況から、大きく激変することでしょう。

◆百人に一人存在する「オトコに困らない女性」

実は「無意識レベルで相手を恋に落とす」というのは、気づかないうちにやっている女性も存在します。

私が数千件の恋愛やパートナーシップのご相談を受けてきた中でも、そういった女性が存在しました。

「ハイ……たしかに狙った男性とは、必ず両想いや望んでいる関係になってきました」

彼女たちは決まって「強い確信」を持っていました。

なぜなら無意識ではあれども、「この技法」のコツを体得していたからです。

「でもそんな風に好きな彼を必ず落とせるなら、恋愛で悩むことないんじゃない？」

そう感じるかも知れません。

ですが実際には恋愛とパートナーシップは、それ以上にお付き合いしてからのほうが色々と大変です。

「相手を思いやり、違いを受け入れながら深い愛情と信頼関係を築き上げていくこと」

それは「好きなカレを強烈に恋に落としてしまう」というのとは、また別の技術が必要です。

そしてある意味、そういった「狙ったオトコを逃したことがない女性たち」はそのことも知っていました。

当時の「彼女いない歴二十年」の私から見れば、それは【ありえない奇跡のような方法】なのだと思います。

ですが実際に憧れの女性と結婚して十年経った今では、私の中ではそれほど凄いことだとは思っていません。

それは二十六歳の時に「もうこの世に落とせない女性はいない」と感じたときに気づきました。

「もし、本当に好きになった女性を必ず落とせるとしたら……キチンとその女性を幸せにできるだろうか？」

ただただ、大好きな異性に振りむいてもらいたかった一心で気づかなかった「もっと大切なこと」。

それは「大好きな人と一緒にずっと続く幸せな関係を育んで行くこと」でした。

今ではそれが当りまえに分かります。

ですが当時、なかなか恋愛がうまくいかずに大好きな女性に振りむいてもらえなかった私には理解できなかったのです。

……だからこそ、まずは私と同じように「大好きなカレから愛されない」というところで躓いているなら、スムーズにソコを抜け出して欲しいのです。

大好きなカレから求められて、ラブラブに愛される喜びに包まれて欲しいのです。

そして「深い愛情と信頼で結ばれた関係」というステージに進んで欲しいと思うのです。

◆奇跡再び～わずか数ヶ月で運命を変えた女性

その後月日は流れ、私は自身の経験も踏まえて心理学や人々をサポートする方法を学んで今の仕事をはじめようになりました。

様々な恋愛やパートナーシップに悩まれている女性たちの問題を解決して、そ

の望みを実現に向かうようにお手伝いするといったカウンセラーのお仕事です。

特に私の場合、自分自身が潜在意識を活用しながら恋愛や人生の問題を克服しながら望みを実現してきました。

そういったこともあり、一般的な悩み解決のカウンセリングというよりも【脳とココロ（潜在意識）というブラックボックス】に秘められた力を最大限に活用する専門家として活動しています。

モチロン、恋愛とパートナーシップは専門分野です。

ですので、そういった「脳とココロ（潜在意識）の原理と仕組み」を土台とした【引き寄せの法則】と共に、赤裸々な男女の悩みに対してのアドバイスも行っております。

そういったこともあり、実際のカウンセリングでのお悩みは生々しい日常的な恋愛の問題が多く寄せられます。

その中でも特に多いのが「失恋・復縁」と「不倫」というカテゴリーのお悩みです。

この本は大好きなカレを恋に落とす「LOVEインフルエンス～情動転写の技法」という技術を紹介しながら実際に活用していただくためのガイドブックと入門書として書いています。

ですがそれは心理技術を机上で教えて、ただ理論を学んで納得していただく「知的好奇心」を満たすという目的ではありません。

あくまで「あなた自身がこの技術を活用して、恋の悩みを解決するツール」とし

て使っていただくためです。

悩ましい片思いの彼との恋を成就に導き、大切な元カレとの愛を取り戻す【具体的で実践的な結果を出してきた方法】だということです。

実際に私のカウンセリングコースのサポートを受けていたある女性は、大きく恋と人生を変えることができました。

その女性は当初、「報われない恋愛」に悩まれていました。

幸せになれない恋を長年追い続けてしまわれていたのです。

ですがカウンセリングをして深い心の痛みが癒されるごとに、彼女は这个世界と現実至今已までと違った光を見るようになりました。

そして個人レッスンでお教えした「情動転写の技法」を使って、素敵な彼氏を作りました。

彼女はほどなく新しい素敵なカレからプロポーズされました。

何十年と変わらなかった、「悲しい恋と生き方」を変えることができたのです。

「昨日、彼氏の私を見守る瞳が優しくてビックリしました」

彼女はそんな風に喜びのご報告をしてくれました。

◆三十五日で会えない状態から復縁できた！？

復縁を希望されている方からのご相談もとても多いです。

そして色々な事情から相手に連絡が取れないというケースも少なくありません。こちらの方はそんな「会えない状態」から「情動転写の技法」を使って復縁を成就されました。

そして驚くことにその期間はわずか「三十五日」という短い日数でした。

そう実はLOVEインフルエンスには距離は本来的に関係ありません。

そもそもが言語を使った働きかけではなく、あくまで【無意識介入の技術】です。

むしろ正確に言えば、目の前に相手がいたとしても「遠隔」の場合と同じ形で働きかけているのです。

私自身も現在の奥さんと二度ならぬ三度ほど、別れのピンチを迎えたことがあります。

そしてそういったシビアな状況で連絡も差し控えていたなかで行っていたのが「情動転写の技法」だったのです。

現在奥さんとは結婚十年を超えて、三人の元気な息子たちと私の父である祖父の六人家族で暮らしています。

それが何よりの「情動転写の技法」の成果だと言っても良いと思います。

そういったこともあって、遠隔でも効果があるということは知っていました。

ですがさすがに見事に三十五日という短期間で「復縁できました」というご報告をいただきました時には、正直、お教えした私自身も驚きました。

◆終わりかけた音信不通の彼から「大逆転の奇跡の連絡」

さらには同じく遠隔で行った事例報告があります。

それは「もう終わりかけていて、連絡も途絶えて終わりそうになっていたカレ」から突然に連絡が来たというケース。

こちらの方は「情動転写の技法」を知ってから、何気なく行ってわずか一日から二日ほどでカレから連絡が来たそうです。

「絶対にLOVEインフルエンスのせいに違いないと確信して、思わず鳥肌が立ちました」

そのようなご報告をいただいています。

そもそも潜在意識には時間も空間もありません。

ですから当然のごとく、そのようなことは自然なことなのです。

ただ、もし遠隔が対面での働きかけよりも弱くなるとしたら、それは「私達の意識の制限」がそうさせているのだと思います。

「情動転写」をする大きなポイントとして【臨場感】があります。つまりはよりリアルに臨場感を高く持つことで、強力な影響を相手に与えられるということです。

私達の認知の仕組みから言っても、どうしても対面でのリアルな働きかけのほうが通常は臨場感が高いです。

イメージした「どら焼き」よりも、やはり今目の前にある「どら焼き」を頬張るほうが臨場感が高いです。

いくらリアルにキスをするイメージをしても、実際にその場で「ブチュッ」としたほうが唇の感触を含めた五感のリアリティは高いはずです。

私達の脳はイメージと現実を区別しません。

もし高い臨場感で本物と感じられるほどに強くイメージができたとしたら、それは脳にとっては現実なのです。

遠く離れた場所にいるカレでも、今ここ目の前に臨場感を高く「本物」と感じられれば対面と同等に効果が出るということです。

理屈ではそうなのですが、実際にやるとなると「高い臨場感を持つ」ということが難しいと感じられるでしょう。

ですので実際にやるとなると、そういった【臨場感生成】の技術が重要になります。

そういったことについては、後半の実践編でお伝えしたいと思います。